

偕楽園の歩き方

～表門ルート 陰から陽へ～

斉昭の趣意を感じながら、「陰」と「陽」の世界の変化を楽しむことができる表門から入るルート(→)がおすすです。

表門から一の木戸を抜けると、孟宗竹林、大杉森、クマザサが茂る幽遠閑寂な「陰」の世界が広がります。散策路を崖下の方へ降りると清冽な吐玉泉があります。

好文亭に至り、三階の楽寿楼に上ると、梅林や広場、千波湖が一望できる「陽」の世界が広がります。そして、芝前門を抜けると梅林、見晴広場へ続きます。



③吐玉泉



④好文亭

斉昭自らが設計したもので、各所に創意工夫と洒脱さを感じさせます。斉昭は、ここに文人墨客や家臣、領内の人々を集めて詩歌や慰安会を催しました。



①表門

偕楽園の正門に相当する門で、松材が多く使用された松煙色(黒色)となっているため、黒門ともいわれています。



②孟宗竹林



偕楽園駅(臨時駅) (Temporary sta.)

偕楽橋 (Temporary bridge)